

平成26年度 磐田市立長野小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察○・改善策※	学校関係者評価委員から
学びを広げる	◎意欲的に学習に取り組む子を育てる ・学習への意欲を高める ・学習に向かう態度を整える ・基礎学力の定着に努める	授業の内容が分かっている	B	○年度当初に教師が「学習の約束」を共通理解をし、指導を揃えた結果、学校全体として授業の準備や聞き方等の学習に向かう態度が整ってきた。 ○学期末テストを実施する1週間前を「長野っ子学習週間」と設定し、学年便りで保護者にも啓発を図った。また、本読みカードにも、家庭学習の時間や内容等を記入する欄を設けた。このような手立てにより、家庭学習への取り組みが充実してきている。 ※分かる・できる実感や、知りたい気持ちをもつことが、学習への意欲につながると考える。そのために、放課後の教材研究に充てる時間をできるだけ確保し、充実した授業づくりに努める。 ※家庭学習の内容をよりよくするために、高学年では自主学习ノートを使用し、自ら学ぶ習慣を身に付けさせる。内容については、学府で作成した「家庭学習のガイド」を参考にする。	・家庭学習への取り組みに対する評価が、児童、保護者、職員ともに昨年度よりかなり上がっていることは、取り組みの成果であり素晴らしい。 ・「長野っ子学習週間」を設定することにより、学習習慣を身に付けるよさがある。 ・家庭学習は習慣付けが大切であり、学府全体の取り組みとしてもよい。低学年のうちから、何を学習すればよいか分かるようにし、積み上げていくとよい。 ・先生方が頑張っているのでも、子どもも頑張らせた。
		始業前の準備・着席ができる	B		
		決められた時間、家庭学習をしている	B		
		進んで先生に聞いたり、自分で調べたりして学習している	C		
		基礎基本の確実な定着を図るように工夫している	A		
認め合う	◎挨拶がよくできる子を育てる ・相手の顔を見て気持ちのよい挨拶をする	「おこさはあすご」の挨拶がよくできる ※おはよう・こんにちは・さようなら・ありがとう・すみません・ごめんなさい	B	○気持ちのよい挨拶ができることを本年度の重点として、挨拶運動や委員会での挨拶調べなどの活動を行ってきた。自分から挨拶ができる子や、廊下で会釈ができる子も増えているが、個人差がある。また、「おこさはあすご」を合言葉としてきた。言葉としては定着しつつあるが、7つの挨拶を意識させるのは難しさがあった。 ○昨年度と比べ、「友達の気持ちを考えて行動している」の評価が上がっている。学校全体としてルールやマナーを大切にできた成果が表れてきている。 ※来年度は「ありがとう」「ごめんなさい」に重点を絞って取り組む。感謝の気持ちをもったり、素直に非を認めたりすることができ、自分も友達も大切に子どもを育てていきたい。	・挨拶は、学校ではできていても家ではできていない子もいる。高学年になると、家族への挨拶を恥ずかしがる子もいるが、しっかり言える子もいる。家庭でもしっかり指導していくことが大切である。 ・挨拶への取り組みを7つから2つに絞るのは、とてもよい。 ・低学年の児童が、職員室に入る際に「失礼します」としっかり挨拶ができており、素晴らしい。 ・挨拶は、子どもたちにとって、社会に出る際にとても大切な要素となる。
		学校を楽しんでいる	A		
		友達の気持ちを考えて行動している	B		
鍛え抜く	◎ルールやマナーを守って、健康・安全に生活する子を育てる。 ・黙って清掃をする ・協力し合い、きちんと並んで登下校する ・外遊びや運動にたくさん取り組み、健康な生活をする	黙って清掃をしている	B	○昨年度と比べ、清掃や登下校の様子がよくなってきている。高学年児童への指導の成果が表れており、リーダーとしての自覚をもって行動できる子が増えている。 ○体力向上に向けての活動や行事(運動会・持久走・長なわ等)への取り組みとして、昼に全校揃って練習する時間を設けて取り組み、意欲が高まった。 ※規範意識や判断力の弱い児童もいるため、清掃や登下校だけでなく、生活全般においてルールやマナーを守ることに、全職員で繰り返し指導していく。 ※体力向上に関わる活動や行事については、ねらいを見直し、より児童の実態に合った実施方法を検討し、全校・学年団・学年などのまとまりで工夫して実施する。	・昔は外遊びの中で体力を付けていた。最近では、家の中での遊びが多くなっているが、帰る時刻の早い水曜日はよく外で遊んでいる。そのような時間のゆとりがあるとよい。また、異学年で遊ぶ中でいろいろなことを学び、それが習慣化されるとよい。 ・投力が劣っているようだが、運動会で投力を補うような種目を取り入れたらどうか。
		きちんと並んで登下校をしている	B		
		よく外に出て元気に体を動かしている	B		
		子どもの体力向上に向けて行事や場の工夫ができています	A		
家庭・地域との連携 地域を理解し、親しみを持たせるとともに、豊かな感性を育てるための龍門館教育の継承を図る 本校の教育活動について理解してもらうための広報活動を充実させる	龍門館教育の伝統や地域を生かした特色ある教育活動を進めている めざす子どもの姿や、取り組んでいる教育内容などについて知っている 保護者・地域の方に学校の様子などの情報公開を行っている 子どもは住んでいる地域の歴史や自然について関心がある		A	○今年度は12月に学校公開日を設けた。保護者や地域の方に子どもたちの様子を見ていただき、普段の学校の様子を知っていただくことができた。その他、様々な活動については、学校便りやホームページ等を通して、紹介している。 ○地域の歴史や自然に関心がある子は少ないという評価は、毎年のものである。昨年度は評価委員の方から、小学校段階では難しいのではないかと感想もいただいており、地道な指導の積み重ねが大事だと考えている。 ※来年度も学校公開日を設け、保護者や地域の方に学校の様子を公開する。また、保護者に教育内容をより理解していただくために、PTA総会の際、学校の取り組みについて説明を加える。	・地域で遊び回ることが、好きになる第一歩である。 ・千寿の舞のような地域の伝統行事に参加している子もいる。地域の歴史に関わっていることを意識していないだけではないだろうか。 ・2年生の生活科「学区探検」で、地域の歴史や自然にかかわる取り組みができるかもしれない。 ・学校公開日は、好評であった。 ・参観会の保護者の私語が少なくなり、関心が高まっている。
			B		
			A		
			C		

学校関係者評価を受けてのまとめ

学校の取り組み内容について熱心に質問をしてくださり、学校への理解を深めていただくことができた。また、教育内容や子どもの様子について、好意的に受け止めてくださっている御意見が多く、学校が地域に支えられていることを感じている。参観会や学校公開日など、実際に子どもの様子を見ることで評価をしていただき、ありがたく思うとともに、地域に開く機会の必要性を感じた。子どもたちがより豊かに成長していくために、貴重な提案もしていただいたため、来年度の実践に生かしていきたい。